



平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年5月13日

上場会社名 株式会社アイビー化粧品 上場取引所 東  
 コード番号 4918 URL http://www.ivy.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 白銀 浩二  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部 本部長 (氏名) 今橋 正道 TEL 03-6880-1201  
 定時株主総会開催予定日 平成26年6月27日 配当支払開始予定日 平成26年6月30日  
 有価証券報告書提出予定日 平成26年6月30日  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期の連結業績（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	4,708	0.7	472	6.8	471	8.8	436	107.6
25年3月期	4,676	△10.3	442	△6.7	433	△15.2	210	△4.7

(注) 包括利益 26年3月期 437百万円 (105.4%) 25年3月期 213百万円 (△4.3%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年3月期	20.19	—	14.9	8.6	10.0
25年3月期	9.72	—	7.4	8.0	9.5

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 一百万円 25年3月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	5,763	3,049	52.9	140.95
25年3月期	5,182	2,827	54.6	130.71

(参考) 自己資本 26年3月期 3,049百万円 25年3月期 2,827百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年3月期	112	8	△49	1,531
25年3月期	261	△50	△326	1,459

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	216	102.9	7.6
26年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00	108	24.8	3.7
27年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00~10.00	5.00~10.00		—	

(注) 平成27年3月期の配当予想については、レンジ形式により開示しておりますので、配当性向は記載しておりません。

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,300~	4.9~	250~	53.6~	250~	50.4~	150~	58.2~	6.93~
	2,500	14.1	400	145.7	400	140.6	240	153.1	11.09
通期	4,800~	1.9~	510~	7.9~	500~	6.0~	300~	△31.3~	13.87~
	5,000	6.2	610	29.1	600	27.2	360	△17.6	16.64

(注) 平成27年3月期の連結業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有  
② ①以外の会計方針の変更：無  
③ 会計上の見積りの変更：無  
④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 18「4. 連結財務諸表 (5) 連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

26年3月期	25,520,000株	25年3月期	25,520,000株
26年3月期	3,886,957株	25年3月期	3,884,783株
26年3月期	21,633,891株	25年3月期	21,636,337株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成26年3月期の個別業績 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	4,710	0.7	546	10.2	565	10.0	410	94.6
25年3月期	4,675	△10.4	496	△2.5	514	△8.7	211	△4.0

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期	18.98	—
25年3月期	9.75	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	5,754	3,024	52.6	139.80
25年3月期	5,174	2,829	54.7	130.77

(参考) 自己資本 26年3月期 3,024百万円 25年3月期 2,829百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、連結財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績・財政状態に関する分析 (1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	4
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	5
(4) 事業等のリスク	6
2. 企業集団の状況	7
3. 経営方針	9
(1) 会社の経営の基本方針	9
(2) 目標とする経営指標	9
(3) 中長期的な会社の経営戦略	9
(4) 会社の対処すべき課題	10
4. 連結財務諸表	11
(1) 連結貸借対照表	11
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	13
連結損益計算書	13
連結包括利益計算書	14
(3) 連結株主資本等変動計算書	15
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	17
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(継続企業の前提に関する注記)	18
(会計方針の変更)	18
(追加情報)	18
(連結貸借対照表関係)	19
(連結損益計算書関係)	20
(連結包括利益計算書関係)	20
(連結株主資本等変動計算書関係)	21
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	22
(セグメント情報等)	23
(1株当たり情報)	24
(重要な後発事象)	24
5. その他	25
(1) 役員の異動	25
(2) 生産、受注及び販売の状況	25

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ① 当期の経営成績

当連結会計年度のわが国経済は、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を背景に、経済再生の実現に向けての動きが見られました。消費税増税後は、3月までの駆け込み需要による反動や、増税や物価の緩やかな上昇傾向による実質負担額の増加も懸念されますが、雇用・所得環境が改善していく兆しのなかで、個人消費も持ち直し、景気の回復傾向が継続することが期待されております。

当化粧品業界におきましては、平成25年度の年間化粧品販売数量は微増の推移となりました。人口の減少や少子高齢化社会の中にあつて、国内化粧品市場は大きな成長が見込みづらい成熟市場となっておりますが、チャンネルを横断した展開が拡大・加速し、企業間競争は激しさを増すなかで、カウンセリング、セルフを問わず、集客に向けた販売員の教育や、新規顧客獲得に向けた施策が重要となっております。

訪問販売化粧品市場では、各社が顧客に対して、積極的にコミュニケーションを図る取り組みを行っておりますが、販売員数が伸び悩んでいることから、新規顧客の獲得はなかなか難しい状況が続き、市場は縮小化傾向となっております。一方、多様化する消費者ニーズに対応するために、店舗化や柔軟性のある販売・美容サービス体制の構築、教育が求められています。

このような状況のもとで、当社グループは企業理念「愛と美と豊かさの実践と追求」に基づき、人と人が直接出会い、コミュニケーションを取りながら、製品やサービスを提供していく対面販売にこだわり、コア事業である訪問販売領域の販売組織満足度を高めるとともに、全てのステークホルダーの満足度の向上を目指し、「驚きと楽しさと感動に溢れる美しい生き方」を共に創造し、幸せと豊かさを提供できる「ワンダ・フル・カンパニー」として成長すべく、企業活動に邁進してまいりました。

当連結会計年度は、平成25年の企業テーマとして掲げた創業の原点である「愛」に基づき、「既存価値の見直し・向上」と、「経営基盤の強化」に取り組んでまいりました。

コア事業におきましては、アイビーファンの拡大推進にあたり、「上級者のようにになりたい」を原動力とする訪販ビジネスモデルの再活性化を、末端販売員まで徹底して浸透することを一貫して実施し、営業所からの組織拡大、専業営業所の拡大に力を入れてまいりました。また、お客様の肌を美しく導ける販売員のカウンセリング力強化を行い、美しい人づくりと顧客満足向上を図ってまいりました。また、エリア特性に応じた営業諸施策の選択、及び展開による顧客接点機会の拡大推進、顧客の定着化と販売力向上に直結する教育体系の模索、売上拡大に直結するコミュニケーション戦略の再構築、情報発信拠点アルテミス ザ・ショップ、同 ザ・ルームの展開支援、購入しやすく、販売しやすい製品開発等に取り組んでまいりました。

ロシア事業におきましては、ディストリビューター支援と、販路拡大に尽力してまいりましたが、一定以上の成果には至りませんでした。台湾事業におきましては、平成25年9月に台北市の百貨店ブリーズセンター内で店舗をオープンし、顧客拡大に努めてまいりました。

当連結会計年度においては、家庭用超音波美容器「アイビー スーパー ソニック HD キット」、スキンケア「アイビーコスモス オイルタッチ クレンジング」、「アイビーコスモス フォーミング ウォッシュ」、美白スキンケアシリーズ「ブランクレエ dx」の5アイテム、美容液「アイビー ホワイトニング エッセンス EX」、メイクアップの限定発売製品「アイビー メイクアップコレクション ワザありビューティ」を発売し、顧客拡大、並びに顧客満足向上に努めてまいりました。

美容液「リントル ローション」、並びに「アクシール エッセンス」におきましては、例年どおり販売強化を行い、顧客満足向上に努めました。

経営基盤強化につきましては、予算委員会での予算管理・牽制機能の強化、人事制度の運用強化、効率的な業務体制への転換喚起、資産管理の徹底及び有効活用、債権・与信・リスク管理の運用強化、連結納税の導入、ISO品質マネジメントの継続推進、固定費のミニマム化による収益性の向上に積極的に取り組みました。

その結果、売上面におきましては、組織活性化と顧客の定着化、並びに新規顧客獲得を推進してまいりましたが、研修動員が不調だったこともあり、営業所増設、販売員の増員、新規顧客の拡大が想定を下回りました。その影響もあり、美容液とレギュラー製品が落ち込みましたが、大型新製品の発売効果もあり、売上高は微増となりました。

一方、利益面におきましては、売上原価率の上昇により、売上総利益が減少しましたが、販売費及び一般管理費の節減に全社を上げて推進した結果、営業利益、経常利益とも増益となりました。また退職金制度改定に伴い、265,658千円の特別利益を計上したことから当期純利益は増益となりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は4,708,987千円（前連結会計年度比0.7%増）、営業利益は472,535千円（同6.8%増）、経常利益は471,867千円（同8.8%増）、当期純利益は436,846千円（同107.6%増）となりました。

部門別の販売実績につきましては、次のとおりであります。

[化粧品部門]

イ. スキンケア

スキンケア製品につきましては、各種販促インセンティブ施策や販促プロモーションを展開してまいりました。新製品としては、平成25年11月に、年齢を重ねた肌の悩みに積極的にアプローチする「アイビーコスモス」シリーズのメイク落とし「アイビーコスモス オイルタッチ クレンジング」と、洗顔料「アイビーコスモス フォーミング ウォッシュ」を発売しました。また、シリーズとしてセット販売を強化するため、「アイビーコスモス ポーチセット」を市場に先行投入し、本品の予約促進と新規顧客獲得に取り組んでまいりました。平成26年2月には、透明感に満ちあふれたオーラで、美しく、潔く、凛と輝く美白と美肌の両方を提案する大型美白スキンケア「ブランクレエ d x」シリーズの5アイテム、美容液「アイビー ホワイトニング エッセンス EX」を発売、美白製品のセット販売を強化するため、「WB ミニトートバッグセット」を先行販売し、拡販に努めてまいりました。

既存美容液やレギュラー製品が伸び悩みましたが、新製品の発売効果もあり、スキンケア全体の売上高は3,623,387千円（同0.1%増）となりました。

ロ. メイクアップ

メイクアップ製品につきましては、平成25年12月に、普段のメイクに華やぎをプラス、簡単で使いやすいアイテムをセットしたメイクアップの限定発売製品「アイビー メイクアップコレクション ワザありビューティ」を発売し、顧客満足向上に努めました。売上高は397,960千円（同13.8%減）となりました。

ハ. ヘアケア

ヘアケア製品につきましては、売上高は147,475千円（同1.1%減）となりました。

ニ. その他化粧品

その他化粧品につきましては、売上高は53,357千円（同2.0%減）となりました。

その結果、化粧品部門の売上高は4,222,181千円（同1.4%減）となりました。

[美容補助商品]

平成25年9月には、美肌を効果的にサポートする家庭用超音波美容器「アイビー スーパー ソニック HD キット」を新発売し、スキンケアとの併用を促進展開してきた結果、売上高は437,862千円（同28.0%増）となりました。

[化粧雑貨品等]

化粧用具等の化粧雑貨品につきましては、売上高は41,803千円（同11.3%減）となりました。

[100%子会社 株式会社アイブラティナ]

訪問販売領域以外の市場を対象に、販路拡大、固定客化を推進してまいりました。

② 次期の見通し

次期につきましては、消費税増税後の消費落ち込みなど、厳しい環境が予想されますが、引き続き、創業の理念の素晴らしさや製品の良さを伝え続けていきます。

また、売上高増加要因となる「人づくり」を徹底して行うことにより、販売力の向上に努めてまいります。特に、研修を通じた販売員の育成による販売基盤の拡充を行い、レギュラー製品の底上げと、美容液「リンクル ローション」並びに「アクシール エッセンス」の拡販に取り組んでまいります。

損益の見通しにつきましては、売上高増加、経費節減に努めてまいります。また、不採算の子会社の事業の縮小を行います。以上により、売上高は増収、営業利益、経常利益につきましては増益を見込んでおります。また、当期純利益につきましては、特別利益の要因がなくなるため、減益を見込んでおります。

以上の見通しにより、次期の連結業績につきましては、下記のように見込んでおります。

売上高	4,800 百万円 (26年3月期比 1.9%増)	～	5,000 百万円 (26年3月期比 6.2%増)
営業利益	510 百万円 (26年3月期比 7.9%増)	～	610 百万円 (26年3月期比 29.1%増)
経常利益	500 百万円 (26年3月期比 6.0%増)	～	600 百万円 (26年3月期比 27.2%増)
当期純利益	300 百万円 (26年3月期比 31.3%減)	～	360 百万円 (26年3月期比 17.6%減)

(2) 財政状態に関する分析

① 資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は3,650,131千円(前連結会計年度末は3,200,703千円)となり、前連結会計年度末に比べ449,428千円増加しました。これは主に現金及び預金が22,261千円、受取手形及び売掛金が441,566千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は2,100,986千円(同1,975,490千円)となり、前連結会計年度末に比べ125,496千円増加しました。これは主に有形固定資産が55,285千円、繰延税金資産が35,419千円減少したものの、退職給付に係る資産が232,748千円増加したことによるものであります。

(繰延資産)

当連結会計年度末における繰延資産の残高は12,095千円(同5,935千円)となり、前連結会計年度末に比べ6,160千円増加しました。これは当連結会計年度に社債を発行したことによるものであります。

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は1,988,368千円(同1,877,919千円)となり、前連結会計年度末に比べ110,449千円増加しました。これは主に短期借入金80,000千円減少したものの、支払手形及び買掛金が90,233千円、未払金が62,525千円、未払法人税等が42,479千円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は725,729千円(同476,285千円)となり、前連結会計年度末に比べ249,444千円増加しました。これは主に退職給付引当金が52,503千円減少したものの、社債が236,000千円、繰延税金負債が73,247千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は3,049,115千円(同2,827,924千円)となり、前連結会計年度末に比べ221,190千円増加しました。これは主に剰余金の配当が216,352千円計上されたものの、当期純利益が436,846千円計上されたことによるものであります。この結果、自己資本比率は、52.9%(同54.6%)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、法人税等の支払、配当金の支払、社債償還による支出等があるものの、税金等調整前当期純利益の計上、社債発行による収入、減価償却費等により、当連結会計年度期首残高に比べ72,261千円増加し、当連結会計年度末には1,531,534千円となりました。

また当連結会計年度における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果得られた資金は112,492千円（前年同期比148,564千円減）となりました。

これは主に退職給付に係る資産の増加額232,748千円、売上債権の増加額441,296千円、法人税等の支払額141,821千円等があるものの、税金等調整前当期純利益737,525千円、減価償却費109,250千円、仕入債務の増加額90,233千円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果得られた資金は8,921千円（前年同期は50,398千円の使用）となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出44,401千円、無形固定資産による支出14,431千円等があるものの、貸付金の回収による収入17,113千円、差入保証金の回収による収入3,840千円、定期預金の払戻による収入50,000千円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は49,236千円（前年同比276,932千円減）となりました。

これは主に社債発行による収入509,265千円があるものの、短期借入金の純増額80,000千円、社債償還による支出260,000千円、配当金の支払額216,069千円等があったことによるものであります。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期	平成26年3月期
自己資本比率（%）	49.6	48.5	50.1	54.6	52.9
時価ベースの自己資本比率（%）	55.1	46.3	67.3	88.5	60.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	8.3	3.8	4.1	5.9	15.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	9.7	22.4	22.5	16.9	8.4

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

（注1）いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

（注2）株式時価総額は、自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

（注3）キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

（注4）有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

（注5）利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を利用しております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループは企業体質の強化と今後の事業展開に備えて、内部留保による資本充実を図るとともに、収益の動向を勘案しながら、利益還元を行うことを基本方針としております。

当期の業績につきましては、「経営成績に関する分析」、「財政状態に関する分析」に詳細を記載しております通り、増収増益となりました。しかしながら、当社を取り巻く今後の環境変化や事業展開、並びに企業体質の強化等を勘案いたしまして、当期の配当金につきましては、1株につき5円減配の普通配当5円を予定しております。

また、次期の配当金につきましては、1株につき5円～10円を予定しております。

今後につきましては、当社グループの財務体質改善も鑑み、内部留保も行い、収益の状況を勘案しながら、利益還元を行うことを検討してまいります。なお、「四半期配当の実施」につきましては、今後の検討課題としております。

(4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末（平成26年3月31日）現在において当社グループが判断したものであります。

①原料・資材となる成分について

当社グループの製造及び販売する「化粧品」及び「医薬部外品」並びに「その他製商品」に使用される原料・資材は、世界各地、様々な企業グループより供給を受けております。当社は、その品質、有効性、安全性を確認し、原料・資材として使用しておりますが、

- ・原料・資材供給が様々な要因により停止した場合、
- ・原料・資材について問題が発生した場合、
- ・薬事法の改正により、従来使用していた原料が使用できなくなった場合、

等については、主要製品の製造及び販売に影響を与え、当社グループの経営指標並びに財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。なお、大規模な災害が発生した場合には、一部の原料・資材供給面において、安定的な供給に影響が出る可能性があります。

②販売組織の財務状態について

当社の販売システムは卸形態を採っております。また当社の販売先は、当社と直接、販売契約を締結している販売会社が主体となっており、当社は販売会社に製商品が出荷された時点で売上を計上しております。化粧品等は、その販売会社と販売契約を締結している営業所を経て、ビューティマネージャーへ卸され、アイビーメイツ及びご愛用者へ販売しております。

当社の在庫管理につきましては、月次で管理を行い、常に適正在庫水準を目標に在庫調整を行っております。一方、販売組織の持つ流通在庫につきましては、定期的なヒアリングにより、財務状況・在庫状況を把握するように努めております。しかしながら、販売組織に当社の把握しきれていない財政状態の急激な悪化があった場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

③特定商取引に関する法律などについて

当社の販売形態は、主として訪問販売の形態をとっておりますが、訪問販売は、「特定商取引に関する法律」の規制を受けます。「特定商取引に関する法律」が改正された場合は、当社の販売システムの維持に影響を及ぼす可能性があります。

④新製品・強化製品への依存度、売上・利益の季節変動性について

当社グループの売上高のうち、新製品・強化製品の売上高に占める比率は約56%（平成26年3月期）となっており、従前より売上高については下表のとおり、季節変動性が高く、新製品・強化製品の販売促進時期の影響で一定の時期に集中する傾向があります。その為、キャンペーンによる新製品・強化製品の売上状況により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

平成26年3月期

(単位；百万円)

	上半期		下半期	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	2,191		2,517	
	423	1,768	790	1,726
当期純利益	94		342	
	△272	367	△130	472

⑤海外事業について

当社グループは、現在、主に台湾での海外展開を行っておりますが、さらに市場拡大できるよう継続展開してまいります。その場合、各国ごとにカントリーリスクや為替変動リスクが存在し、海外事業が初期投資額に見合う収益を得られない場合は、当社グループの財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

⑥新規事業について

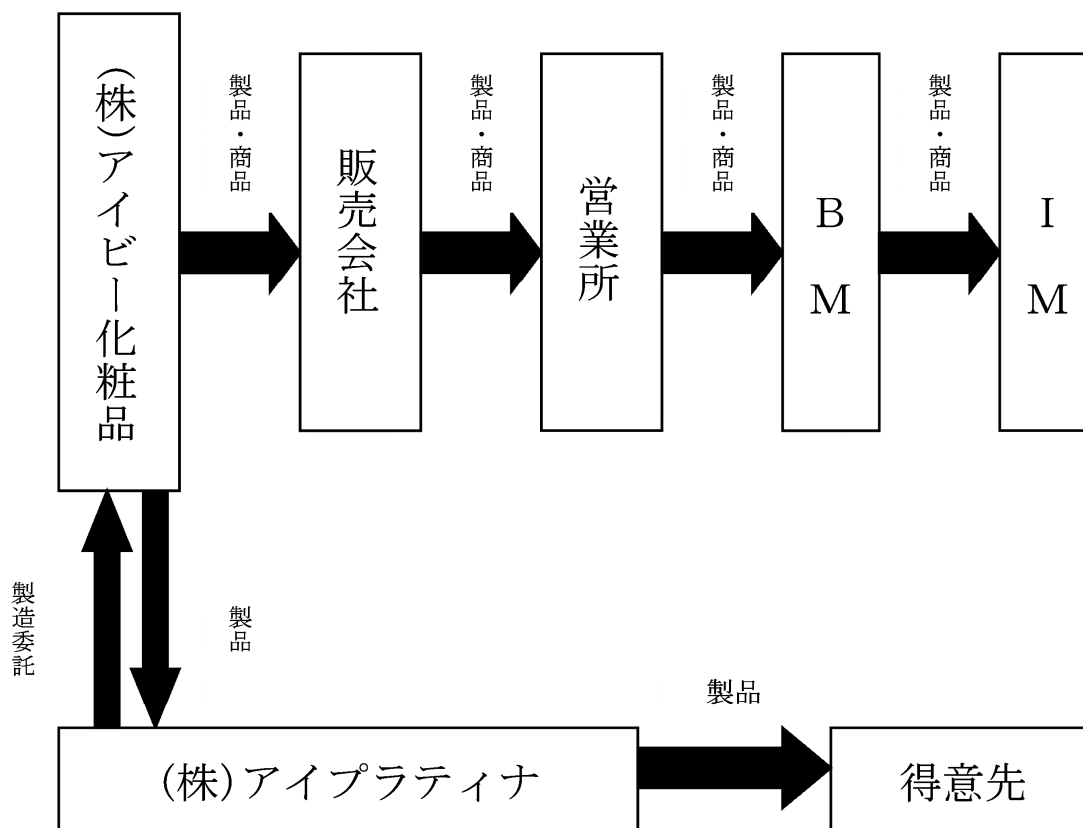
子会社「株式会社アイプラティナ」において新規事業を行っておりますが、当事業が初期投資額に見合う収益を得られない場合は、当社グループの財務状況に影響を及ぼす可能性があります。



## 2. 企業集団の状況

当社グループは、当社及び連結子会社「株式会社アイプラティナ」（出資比率100%）により構成しております。

当社グループは、化粧品および医薬部外品の製造販売を主な事業としております。当社グループの事業内容と当社と連結子会社の当該事業に係る位置付けは次のとおりであります。



(注) BM : Beauty Manager (ビューティマネージャー)  
IM : IVY Mates (アイビーメイツ)

### (1) 訪問販売化粧品事業

当事業では、全国にある231社（平成26年3月31日現在）の販売会社と販売契約を結んでおります。当社は、主に化粧品及び医薬部外品、美容補助商品、化粧雑貨品等の開発、製造及び販売を行うとともに、訪問販売を行う販売組織に対する販売支援活動を行っております。当社と販売会社との間には、資本関係及び人的関係はありませんが、企業理念と製品により強く結びついており、非常に強固な信頼関係で結ばれております。

なお、顧客への販売は販売会社の役割となっているため、当社の出荷先は原則として販売会社となっており、当社の売上高は販売会社等へ出荷した金額であります。

〔製品の概要〕

#### ① スキンケア

当社の主力製品カテゴリーの「スキンケア」は、主に基幹スキンケアラインと、美容液を主とするスペシャルケアなどにより構成されています。

基幹スキンケアラインは、主力ラインとして「アイビーコスモス」「ベーシック EX」「ブランクレエ dx（医薬部外品）」「アティール グレイス」などがあり、各ラインは「クレンジング」「洗顔料」「化粧水」「乳液・クリーム」「パック」などのアイテムで構成されています。なお、基幹スキンケアラインの出荷数量・金額は比較的安定しております。

一方、美容液を主とするスペシャルケアは、約1ヶ月集中型のスキンケア「アイビーフォーミュラ 30」や、美容液「リンクル ローション」「アクシール エッセンス」「アイビー ホワイトニング エッセンス EX」などがあります。これらの製品群は強化製品として位置付けております。そのため、スペシャルケアは新製品発売や販売組織の流通在庫の影響を受けやすく、季節により売上高の変動が大きいという特徴があります。

② メークアップ

「メークアップ」は「アイビー エレガンス」シリーズ、「アイビー メーク」シリーズを販売しており、主に「ファンデーション」「フェースカラー」「リップカラー」「アイライナー」などがあり、当社は特に「ファンデーション」などのベースメイクに強いという特徴があります。

③ ヘアケア

「ヘアケア」は、「ラビエステGL」シリーズを販売しており、主に「シャンプー」「トリートメント」「ヘアクリーム」「ヘアカラー」などがあります。

④ その他化粧品

「その他化粧品」は、男性用化粧品「メンズワン」や、「リンクル ローラー」などがあります。

⑤ 美容補助商品

「美容補助商品」は、家庭用超音波美容器「アイビー スーパー ソニック HD キット」、連続式電解水生成器「アイビー クリーン QⅢ」をはじめ、ビューティサポート、ヘルシーサポート、スタイルサポートの体系からなる健康食品などがあります。

⑥ 化粧雑貨品等

「化粧雑貨品等」は、化粧雑貨のほか、「アイビーニュース」（有償分）などがあります。

(2) 直販化粧品事業

消費者の趣向の多様化により、化粧品業界においても、「美」を追求するためのブランド志向が高まってきております。そのような新たなマーケット開拓が有望であると判断し、直販化粧品事業の探索を行っております。

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、経営の透明性、健全性、機動性を確保し、「理念」「使命」「行動指針（アイビーの誓い）」を原点とした企業活動を行うことにより、理念と戦略と行動を一致させ、積極的な情報開示を行うことにより、全てのステークホルダーから信頼、満足される企業の実現に努めております。

##### [理念]

「愛と美と豊かさの実践と追求」

##### [使命]

「私たちは、美しさを育む商品・サービスの提供を通して、美しい生き方＝ワンダ・フル・ライフを共に創造します。」

##### [行動指針]

「アイビーの誓い」

- 一、アイビー化粧品は、美と美の限りなき追求をします。
- 一、アイビー化粧品は、自信と誇りをもった製品をとどけます。
- 一、アイビー化粧品は、心を豊かにし、幸福の輪を広げます。
- 一、アイビー化粧品は、地域社会への奉仕と還元につくします。

具体的には、企業理念「愛と美と豊かさの実践と追求」に基づき、創業以来、人と人が直接出会い、コミュニケーションを取りながら、品質、機能性を追及した製品や、お客様視点にたったサービスを提供していく訪問販売、対面販売を展開する総合化粧品メーカーとして、「目の前の人を美しくすること」「美しくなった喜びや実感を伝えること」を地道に行い、幸せの輪、豊かさの輪を伝え続けています。

そして、訪問販売領域の販売組織満足度を高めるとともに、全てのステークホルダーの満足度の向上を目指し、「驚きと楽しさと感動に溢れる素晴らしい人生＝ワンダ・フル・ライフ」を共に創造し、夢と幸せと豊かさを提供できる「ワンダ・フル・カンパニー」として成長すべく、企業活動を行っています。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、売上に対する利益のレバレッジが高いという特徴を持っているため、目標売上高の達成を最重要視しておりますが、それとともに棚卸資産回転期間、自己資本比率、売上高経常利益率をKPI（経営重要指標；Key Performance Indicator）として、経営状況を常にチェックすることで、バランスのとれた経営を目指しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、これまで育んできた創業の精神を大切にしながら、強みである「製品力」「美容力」「教育力」をさらに磨きあげ、Only Oneの存在、美のリーディングカンパニーを目指しています。ステークホルダーの満足と、より一層の信頼を得られる企業に成長するために、現在の経営資源や価値を再研磨しながら新しい諸施策を融合し、新規市場の創造にも力を入れ、経営基盤の強化と企業価値向上を図ってまいります。

具体的には、お客様や販売組織とともに満足し、喜びあう「買う側、売る側、つくる側が良いと感じる三方よしの企業体」を目指し、コア事業、及びグループとしての成長要因を顕在化させ、実行していく構造改革を行ってまいります。販売面では競争力のある販売方法と効果的なコミュニケーション戦略を再構築し、当社を知る機会や広める機会、人を育む機会を再強化すると共に、企画開発から育成・販売・フォローまで一貫して行う販売プロモーションを推進することで、アイビーファンを獲得してまいります。製品面では、研究・開発技術の向上と具現化を実践することで、ノーマライジングを実現する製品体系を再構築していきます。そして、これからの時代を担うアイビーの人間力を磨き、アイビーブランドを再構築する人材の育成と登用を行う体制を構築してまいります。

また、既存価値の生産性を高めていくBPRを実践し、効率化・合理化を追求し続ける機動的な本社への再精査を継続実施してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

化粧品業界におきましては、消費者動向、流通チャネルの多様化、海外グローバル企業の攻勢、他業種からの新規参入、業界境界線の希薄化、国内市場の飽和状態などにより、企業間競争が激しくなっており、日本の化粧品企業の海外市場への積極展開が加速することや、各企業の合従連衡やM&A（買収・合併）の増加も予測され、各企業とも企業価値の向上が必須となってきました。

そうした状況下、当社グループは、平成26年の企業テーマに「Dream（夢）」を掲げ、一人でも多くの女性に美しくなっていただき、「ワンダ・フル・ライフ」を実感していただけるように、製品・サービスの提供を通して、ステークホルダーの満足の向上に努めてまいります。

中期経営方針に沿って、創業以来、積み重ねてきた訪販事業基盤の立て直しと、将来の成長準備を併行して実行してまいります。具体的には、

- ・競争力のある販売方法の再構築
- ・販売組織育成方法の再構築
- ・販売組織支援の見直し

の3つを、訪販事業基盤の立て直し課題として取り組んでまいります。

また、

- ・継続成長を目指すことのできるビジネスモデルの構築
- ・時代に即したサービス・インフラの整備
- ・海外事業の拡大

を成長準備項目として取り組んでまいります。同時に、一層のコスト及び在庫ロスの低減化を推進し、意思決定のスピードアップと経営の効率化を、全社を挙げて継続的に取り組んでまいります。

ロシア事業につきましては、経営資源をコア事業に集中するため、当面、凍結といたします。台湾事業につきましては、さらに市場拡大できるよう継続展開してまいります。

子会社である株式会社アイプラティナにつきましては、取引先、固定客に特化した支援・サービスに集中した展開をしてまいります。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,509,273	1,531,534
受取手形及び売掛金	1,005,164	1,446,730
商品及び製品	416,440	372,130
仕掛品	10,298	11,349
原材料及び貯蔵品	138,459	166,328
前払費用	45,101	41,235
繰延税金資産	50,918	50,799
未収入金	6,772	10,152
その他	26,133	26,009
貸倒引当金	△7,858	△6,138
流動資産合計	3,200,703	3,650,131
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	※1 2,088,882	※1 2,087,963
減価償却累計額	△1,649,872	△1,686,240
建物及び構築物 (純額)	※1 439,009	※1 401,722
機械装置及び運搬具	656,831	659,831
減価償却累計額	△606,062	△621,532
機械装置及び運搬具 (純額)	50,769	38,299
工具、器具及び備品	921,575	940,311
減価償却累計額	△888,252	△911,013
工具、器具及び備品 (純額)	33,323	29,297
土地	※1, ※2 521,190	※1, ※2 521,190
リース資産	12,800	12,800
減価償却累計額	△1,371	△3,199
リース資産 (純額)	11,428	9,600
建設仮勘定	-	325
有形固定資産合計	1,055,721	1,000,435
<b>無形固定資産</b>		
商標権	8,591	7,302
施設利用権	400	361
電話加入権	4,641	4,641
ソフトウェア	26,205	30,579
リース資産	150	-
その他	900	720
無形固定資産合計	40,888	43,605
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	20,302	22,030
出資金	30	30
長期貸付金	125,871	116,761
破産更生債権等	2,025	1,755
長期前払費用	11,409	9,002
退職給付に係る資産	-	232,748
繰延税金資産	35,419	-
投資不動産	287,934	287,934
減価償却累計額	△13,758	△18,614
投資不動産 (純額)	274,176	269,319

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
保険積立金	56,871	57,835
差入保証金	※1 393,296	※1 391,191
その他	18,230	17,863
貸倒引当金	△58,752	△61,591
投資その他の資産合計	878,880	1,056,945
固定資産合計	1,975,490	2,100,986
繰延資産		
社債発行費	5,935	12,095
繰延資産合計	5,935	12,095
資産合計	5,182,128	5,763,213
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	281,174	371,407
短期借入金	※1 880,000	※1 800,000
1年内償還予定の社債	260,000	284,000
リース債務	1,995	1,869
未払金	204,026	266,551
未払費用	52,200	47,814
未払法人税等	69,453	111,933
未払消費税等	13,005	19,749
賞与引当金	72,756	68,011
ポイント引当金	322	298
その他	42,984	16,732
流動負債合計	1,877,919	1,988,368
固定負債		
社債	380,000	616,000
リース債務	10,260	8,391
未払役員退職慰労金	16,020	9,520
繰延税金負債	-	73,247
再評価に係る繰延税金負債	※2 5,743	※2 5,743
退職給付引当金	52,503	-
その他	11,757	12,826
固定負債合計	476,285	725,729
負債合計	2,354,204	2,714,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	804,200	804,200
資本剰余金	343,800	343,800
利益剰余金	3,067,083	3,287,578
自己株式	△1,270,229	△1,270,665
株主資本合計	2,944,854	3,164,912
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,748	2,880
土地再評価差額金	※2 △118,678	※2 △118,678
その他の包括利益累計額合計	△116,929	△115,797
純資産合計	2,827,924	3,049,115
負債純資産合計	5,182,128	5,763,213

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	4,676,676	4,708,987
売上原価	※3 1,064,806	※1, ※3 1,187,369
売上総利益	3,611,869	3,521,618
販売費及び一般管理費	※2, ※3 3,169,415	※2, ※3 3,049,082
営業利益	442,454	472,535
営業外収益		
受取利息	4,036	4,120
受取配当金	530	474
投資不動産賃貸料	9,915	14,864
受取賃貸料	41,691	30,877
業務受託手数料	10,502	10,502
カード手数料収入	2,898	2,865
雑収入	10,883	9,983
営業外収益合計	80,459	73,689
営業外費用		
支払利息	9,015	9,269
社債利息	5,890	4,856
社債発行費償却	4,433	4,063
投資不動産賃貸費用	14,805	17,664
賃貸収入原価	46,217	34,142
雑損失	8,936	4,362
営業外費用合計	89,299	74,358
経常利益	433,614	471,867
特別利益		
退職給付制度改定益	-	265,658
特別利益合計	-	265,658
税金等調整前当期純利益	433,614	737,525
法人税、住民税及び事業税	181,543	192,489
法人税等調整額	41,661	108,190
法人税等合計	223,204	300,679
少数株主損益調整前当期純利益	210,409	436,846
当期純利益	210,409	436,846

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	210,409	436,846
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,804	1,132
その他の包括利益合計	※ 2,804	※ 1,132
包括利益	213,214	437,979
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	213,214	437,979
少数株主に係る包括利益	—	—



(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	804,200	343,800	3,073,044	△1,269,886	2,951,158
当期変動額					
剰余金の配当			△216,370		△216,370
当期純利益			210,409		210,409
自己株式の取得				△342	△342
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	—	—	△5,960	△342	△6,303
当期末残高	804,200	343,800	3,067,083	△1,270,229	2,944,854

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	△1,056	△118,678	△119,734	2,831,423
当期変動額				
剰余金の配当				△216,370
当期純利益				210,409
自己株式の取得				△342
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	2,804	—	2,804	2,804
当期変動額合計	2,804	—	2,804	△3,498
当期末残高	1,748	△118,678	△116,929	2,827,924

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	804,200	343,800	3,067,083	△1,270,229	2,944,854
当期変動額					
剰余金の配当			△216,352		△216,352
当期純利益			436,846		436,846
自己株式の取得				△436	△436
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）					
当期変動額合計	-	-	220,494	△436	220,058
当期末残高	804,200	343,800	3,287,578	△1,270,665	3,164,912

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額 金	土地再評価差額金	その他の包括利益累計額 合計	
当期首残高	1,748	△118,678	△116,929	2,827,924
当期変動額				
剰余金の配当				△216,352
当期純利益				436,846
自己株式の取得				△436
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）	1,132	-	1,132	1,132
当期変動額合計	1,132	-	1,132	221,190
当期末残高	2,880	△118,678	△115,797	3,049,115

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	433,614	737,525
減価償却費	115,019	109,250
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△36,327	△52,503
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△42,216	△4,744
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△906	1,119
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	-	△232,748
受取利息及び受取配当金	△4,567	△4,595
支払利息	14,906	14,125
社債発行費償却	4,433	4,063
為替差損益 (△は益)	△1,913	△83
有形固定資産除却損	608	687
売上債権の増減額 (△は増加)	288,894	△441,296
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,295	15,390
仕入債務の増減額 (△は減少)	△142,839	90,233
未払金の増減額 (△は減少)	△68,079	62,874
未払役員退職慰労金の増減額 (△は減少)	-	△3,500
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△4,617	6,743
その他	10,780	△39,415
小計	561,495	263,127
利息及び配当金の受取額	4,457	4,498
利息の支払額	△15,425	△13,313
法人税等の支払額	△289,469	△141,821
営業活動によるキャッシュ・フロー	261,057	112,492
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△47,137	△44,401
無形固定資産の取得による支出	△8,417	△14,431
定期預金の払戻による収入	-	50,000
貸付けによる支出	△20,243	△1,849
貸付金の回収による収入	17,465	17,113
差入保証金の差入による支出	△4,452	△1,349
差入保証金の回収による収入	13,771	3,840
その他	△1,384	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50,398	8,921
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	80,000	△80,000
社債の発行による収入	-	509,265
社債の償還による支出	△180,000	△260,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△9,806	△1,995
自己株式の取得による支出	△342	△436
配当金の支払額	△216,019	△216,069
財務活動によるキャッシュ・フロー	△326,168	△49,236
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,913	83
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△113,596	72,261
現金及び現金同等物の期首残高	1,572,870	1,459,273
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,459,273	※1 1,531,534

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し、年金資産の額から退職給付債務を控除した額を退職給付に係る資産として計上する方法に変更しております。

(追加情報)

(退職給付制度の改定)

当社は、現在採用しております確定給付企業年金制度の改定について、厚生労働大臣の承認を得て、平成26年2月12日開催の取締役会において決議、決定いたしました(平成26年1月1日に遡って適用)。改定内容は、ポイント体系及び自己都合退職時における乗率の変更であります。なお、当連結会計年度において、この改定により退職給付制度改定益265,658千円を計上しております。

(連結納税制度の適用)

当連結会計年度より、連結納税制度を適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	392,975 千円	361,158 千円
土地	509,472	509,472
差入保証金	291,216	291,216
計	1,193,665	1,161,848

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	446,000 千円	416,000 千円
計	446,000	416,000

※2 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日改正)に基づき土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法…「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年公布法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算基礎となる土地の価格を算出するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価格に基づいております。

・再評価を行った年月日…平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	△173,598 千円	△177,508 千円

3 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
当座貸越極度額	900,000 千円	1,200,000 千円
借入実行残高	600,000	600,000
差引額	300,000	600,000

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	— 千円	8,368 千円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
広告宣伝費	31,730 千円	55,788 千円
荷造運送費	109,540	107,867
販売促進費	592,413	578,608
役員報酬	251,290	238,612
給与手当	778,634	719,327
賞与	73,013	60,246
賞与引当金繰入額	63,745	59,941
退職給付費用	58,770	76,519
法定福利費	131,382	121,874
賃借料	392,365	387,004
旅費交通費	93,464	79,615
減価償却費	42,829	41,318
貸倒引当金繰入額	2,093	1,119

※3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	232,750 千円	254,958 千円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	3,697千円	1,727千円
税効果額	△892	△595
その他有価証券評価差額金	2,804	1,132
その他の包括利益合計	2,804	1,132

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	25,520,000	—	—	25,520,000
合計	25,520,000	—	—	25,520,000
自己株式				
普通株式(注)	3,882,931	1,852	—	3,884,783
合計	3,882,931	1,852	—	3,884,783

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,852株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	216,370	10.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	216,352	利益剰余金	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	25,520,000	—	—	25,520,000
合計	25,520,000	—	—	25,520,000
自己株式				
普通株式（注）	3,884,783	2,174	—	3,886,957
合計	3,884,783	2,174	—	3,886,957

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加2,174株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	216,352	10.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
次のとおり、決議を予定しております。

（決議）	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	108,165	利益剰余金	5.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	1,509,273千円	1,531,534千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△50,000	—
現金及び現金同等物	1,459,273	1,531,534



(セグメント情報等)

a. セグメント情報

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）及び当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

当社グループは化粧品の専門メーカーとして、同一セグメントに属する化粧品の製造、販売を行っているため、記載を省略しております。

b. 関連情報

前連結会計年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは化粧品の専門メーカーとして、同一セグメントに属する化粧品の製造、販売を行っているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高において、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

当連結会計年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは化粧品の専門メーカーとして、同一セグメントに属する化粧品の製造、販売を行っているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、特定の顧客への売上高において、連結損益計算書の売上高の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

c. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

d. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

e. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	130.71円	140.95円
1株当たり当期純利益金額	9.72円	20.19円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益 (千円)	210,409	436,846
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	210,409	436,846
期中平均株式数 (千株)	21,636	21,633

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

(1) 役員の変動

① 代表取締役の変動

該当事項はありません。

② その他の役員の変動

該当事項はありません。

③ 役員の変職変更 (平成26年6月27日付)

取締役副会長 白銀 真也 (現 取締役副社長)

(2) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

当連結会計年度の化粧品の生産実績を部門別に示すと、次のとおりであります。

部門別	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		増減	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	増減率 (%)
スキンケア	4,088,185	85.6	3,719,320	87.5	△368,865	△9.0
メイクアップ	472,543	9.9	338,619	8.0	△133,923	△28.3
ヘアケア	152,025	3.2	134,512	3.1	△17,513	△11.5
その他	58,212	1.2	52,532	1.2	△5,680	△9.8
アイビー化粧品計	4,770,967	99.9	4,244,984	99.8	△525,982	△11.0
アイブラティナ	2,552	0.1	7,445	0.2	4,893	191.7
合計	4,773,519	100.0	4,252,429	100.0	△521,089	△10.9

(注) 1. 金額は、販売価格で表示しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

② 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績を部門別に示すと、次のとおりであります。

部門別	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		増減	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	増減率 (%)
美容補助商品	146,214	77.6	274,312	88.3	128,098	87.6
化粧雑貨品等	42,288	22.4	36,276	11.7	△6,011	△14.2
アイビー化粧品計	188,502	100.0	310,589	100.0	122,087	64.8
アイブラティナ	—	—	—	—	—	—
合計	188,502	100.0	310,589	100.0	122,087	64.8

- (注) 1. 金額は、仕入価格で表示しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

③ 受注状況

当社グループは受注生産を行っておりませんので、該当事項はありません。

④ 販売実績

当連結会計年度の販売実績を部門別に示すと、次のとおりであります。

部門別	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)		増減	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	増減率 (%)
スキンケア	3,618,233	77.4	3,623,387	76.9	5,153	0.1
メイクアップ	461,841	9.9	397,960	8.5	△63,880	△13.8
ヘアケア	149,123	3.2	147,475	3.1	△1,647	△1.1
その他	54,428	1.1	53,357	1.1	△1,070	△2.0
化粧品合計	4,283,626	91.6	4,222,181	89.6	△61,445	△1.4
美容補助商品	342,006	7.3	437,862	9.3	95,856	28.0
化粧雑貨品等	47,106	1.0	41,803	0.9	△5,303	△11.3
アイビー化粧品計	4,672,739	99.9	4,701,847	99.8	29,107	0.6
アイブラティナ	3,937	0.1	7,140	0.2	3,203	81.4
合計	4,676,676	100.0	4,708,987	100.0	32,311	0.7

- (注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。